

第 46 回薬剤耐性菌研究会

会 期：平成 29 年 11 月 10 日（金）12:55 ～
平成 29 年 11 月 11 日（土）12:05

会 場：水上ホテル聚楽
2 階（フロント階）コンベンションホール『コンコルド』

〒379-1617 群馬県利根郡みなかみ町湯原 665 Tel:0278-72-2521

<http://www.hotel-juraku.co.jp/minakami/>

会 長：菅井 基行（広島大学院内感染症プロジェクト研究センター）
開催当番：富田 治芳（群馬大学・院・医 細菌学/附属薬剤耐性菌実験施設）

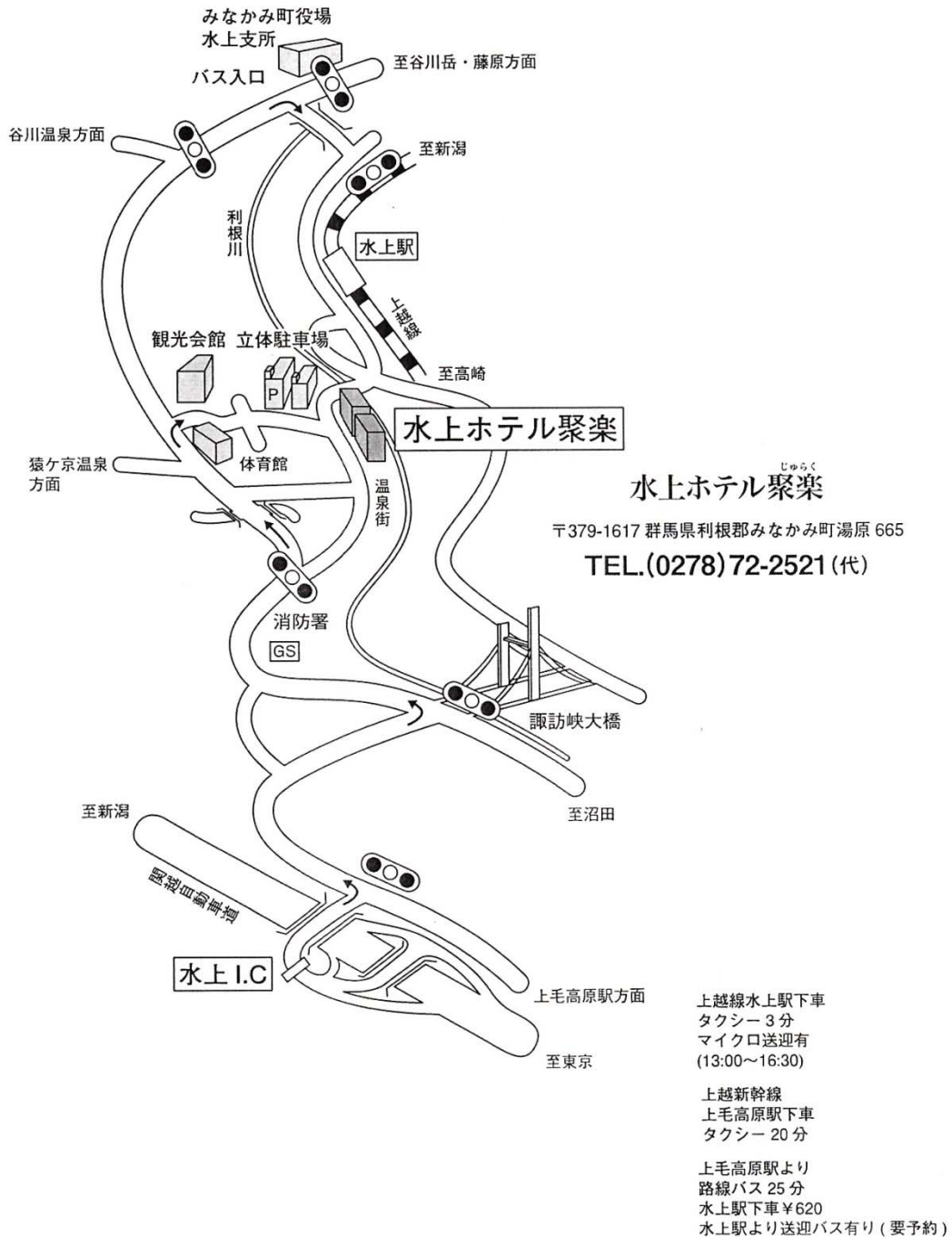
研究会事務局

連絡先：群馬大学大学院医学系研究科・薬剤耐性菌実験施設

代 表：富田 治芳

TEL: 027-220-7992 FAX: 027-220-7996

ご案内図



- ・お車（普通車）でお越しの方は立体駐車場（ホテルから80m）2～4階にご駐車下さい。
- ・最寄り駅（上越線 水上駅）より徒歩8分です。
- ・上越新幹線上毛高原駅、上越線水上駅着の方は、事前に到着時間を事務局までお知らせ頂ければ、バスが迎えに行きます。

ご案内

1. 参加受付

受付は11月10日（金）11:30より2F（フロント階）コンベンションホール「コンコルド」にて行います。

2. 宿泊／参加費

17,000円（内訳：年会費1,000円、研究会参加費6,000円、宿泊費10,000円）
（個室希望の方は別途7,000円）

3. 口演発表

- ・一般演題の口演時間は10分程度とし、質疑応答を含めて15分です。
- ・1演題あたりスライド12枚程度でお願いします。
- ・発表はマイクロソフトパワーポイントでお願いします。
- ・液晶プロジェクターの入力端子はDsub-15ピンのみです。必要な場合はアダプターをご持参下さい。USBメモリ等で発表データをお持ちの方は、発表用PC（windows8.1, PowerPoint2013）を使用して頂くこともできます。Macintoshをご利用の方はご自身のPC本体をご持参下さい。
- ・発表に際し、COIやスポンサーシップ等につきましては、先生方ご自身で対応願います。

第46回薬剤耐性菌研究会プログラム

平成29年11月10日(金)

12:55~18:00

12:55~13:00

開会の挨拶

菅井 基行(広島大学)

一般演題：発表12分、討論3分

13:00~

座長：鹿山 鎮男(広島大学)

各種薬剤耐性／耐性機構

食肉から分離した腸球菌のバシトラシン耐性についての研究

○杉岡佳祐¹，野村隆浩¹，久留島 潤¹，谷本弘一²，富田治芳^{1,2}

(¹群馬大 院医 細菌学，²群馬大 院医 薬剤耐性菌実験施設)

国内2つの医療機関にて分離されたVanB型バンコマイシン感受性腸球菌に関する分子生物学的研究

○橋本佑輔¹，野村隆浩¹，玉井清子³，柳沢英二³，調 恒明⁴，谷本弘一²，富田治芳^{1,2}

(¹群馬大 院医 細菌学，²群馬大 院医 薬剤耐性菌実験施設，³(株)ミロクメディカルラボラトリー，⁴山口県環境保健センター)

β -ラクタム系薬の選択圧の違いがB群レンサ球菌の β -ラクタム系薬低感受性化へ及ぼす影響

○小出将太¹，小坂駿介¹，谷口唯¹，林航¹，大崎裕介¹，木村幸司²，長野由紀子²，荒川宜親²，長野則之¹

(¹信州大学大学院 医学系研究科，²名古屋大学大学院 医学系研究科)

13:45-14:15

グラム陰性桿菌におけるホスホマイシン分解酵素FosAの検索と新規阻害薬の探索

○Yohei Doi^{1,2}，Ryota Ito²，Adam Tomich¹，Nicolas Sluis-Cremer¹

(¹ピッツバーグ大学医学部感染症内科学，²藤田保健衛生大学医学部微生物学)

14:15～

座長:平川 秀忠(群馬大学)

国内の種々材料由来腸内細菌科細菌におけるコリスチン耐性機序の多様性

○林航¹, 谷口唯¹, 大崎裕介¹, 小出将太¹, 小坂駿介¹, 長野由紀子², 荒川宜親², 長野則之¹

(¹信州大学大学院 医学系研究科, ²名古屋大学大学院 医学系研究科)

グラム陰性菌多剤排出トランスポーター複合体の構成と構造

○林克彦¹, 中島良介², 櫻井啓介², 西野-林美都子¹, 山崎聖司¹, 北川公恵², 山口明人², 西野邦彦¹

(¹大阪大学・産業科学研究所・生体分子制御科学研究分野, ²大阪大学・産業科学研究所・生体防御学研究分野)

~~~~~**coffee break** 14:45~15:00 ~~~~~

15:00～

座長:中村 明子(三重大学)

### ESBL / $\beta$ -lactamase

#### 鶏肉検体からの ESBL、AmpC 産生腸内細菌科細菌の分離と解析

○大竹洋輔<sup>1</sup>, 千葉菜穂子<sup>1</sup>, 久留島潤<sup>1</sup>, 谷本弘一<sup>2</sup>, 富田治芳<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>群馬大・院医・細菌学, <sup>2</sup>群馬大・院医・薬剤耐性菌実験施設)

#### 市販鶏肉由来 ESBL 産生 *Escherichia coli* の遺伝学的特性

○大崎裕介<sup>1</sup>, 林 航<sup>1</sup>, 谷口唯<sup>1</sup>, 小出将太<sup>1</sup>, 小坂駿介<sup>1</sup>, 長野由紀子<sup>2</sup>, 荒川宜親<sup>2</sup>, 長野則之<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>信州大学大学院 医学系研究科, <sup>2</sup>名古屋大学大学院 医学系研究科)

#### 健康人および鶏肉間における CTX-M-8 ESBL 遺伝子の水平伝播は IncI1/ST113 により媒介される

○法月千尋<sup>1,2</sup>, 和知野純一<sup>3</sup>, 鈴木匡弘<sup>4</sup>, 川村久美子<sup>1</sup>, 荒川宜親<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>名古屋大学大学院 医学系研究科 医療技術学専攻, <sup>2</sup>公立陶生病院 臨床検査部, <sup>3</sup>名古屋大学大学院 医学系研究科 分子病原細菌学, <sup>4</sup>藤田保健衛生大学 医学部 微生物学講座)

## 愛玩動物臨床由来セフトキシム耐性 *Enterobacteriaceae* における CTX-M-27

### ESBL 産生 *E. coli* B2-O25b-ST131-H30R クローンの高頻度分布

○谷口唯<sup>1</sup>，林 航<sup>1</sup>，大崎裕介<sup>1</sup>，小出将太<sup>1</sup>，小坂駿介<sup>1</sup>，前山佳彦<sup>1,2</sup>，玉井清子<sup>2</sup>，長野由紀子<sup>3</sup>，荒川宜親<sup>3</sup>，長野則之<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>信州大学大学院 医学系研究科，<sup>2</sup>ミロクメディカルラボラトリー，<sup>3</sup>名古屋大学大学院 医学系研究科)

16:00～

座長：松本 竹久（群馬大学）

### 大腸菌由来 CTX-M 型 $\beta$ -ラクタマーゼ遺伝子保有プラスミドの系統ネットワーク解析

○鈴木匡弘<sup>1,2</sup>，和知野純一<sup>3</sup>，川村久美子<sup>4</sup>，長野則之<sup>5</sup>，荒川宜親<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>藤田保衛大・医・微生物，<sup>2</sup>愛知衛研・細菌，<sup>3</sup>名大・医・細菌学，<sup>4</sup>名大・保健・細菌学，<sup>5</sup>信州大・保健・細菌学)

### 在宅医療患者および介護施設入所者等における基質特異性拡張型 $\beta$ -ラクタマーゼ産生大腸菌の保菌率と分子疫学解析

○林謙吾<sup>1</sup>，川村久美子<sup>1</sup>，北岡一樹<sup>2</sup>，木村幸司<sup>2</sup>，和知野純一<sup>2</sup>，飯沼由嗣<sup>3</sup>，村上啓雄<sup>4</sup>，藤本修平<sup>5</sup>，荒川宜親<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>名大院・医・医療技術，<sup>2</sup>名大院・医・細菌，<sup>3</sup>金沢医大・臨床感染症学，<sup>4</sup>岐阜大・医・附属病院・生体支援センター，<sup>5</sup>東海大・医・生体防御学)

### $\beta$ -lactamase 産生 *Capnocytophaga* 属菌における CSP 型 $\beta$ -lactamase 遺伝子の保有状況

○高橋 啓<sup>1</sup>，松本 竹久<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>群馬大学 医学部保健学科，<sup>2</sup>群馬大学大学院保健学研究科)

16:45～

### 感染対策

#### 耐性菌関連電子システム開発の現状 –耐性菌条件/警告・案内定義メッセージの標準化・RICSS・2DCM-web の進捗–

○藤本修平<sup>1</sup>，谷本弘一<sup>2</sup>，富田治芳<sup>2</sup>，八木哲也<sup>3</sup>，柴山恵吾<sup>4</sup>，荒川宜親<sup>3</sup>，村上啓雄<sup>5</sup>

(<sup>1</sup>東海大学，<sup>2</sup>群馬大学，<sup>3</sup>名古屋大学，<sup>4</sup>国立感染症研究所，<sup>5</sup>岐阜大学)

~~~~~coffee break 17:00～17:10 ~~~~~

17:10～

座長：柴山 惠吾 (国立感染症研究所)

特別講演

AMR surveillance in China

○Bo Zheng¹, Xiaolin Liu² and Yuan Lv¹

¹Institute of Clinical Pharmacology, Peking University
First Hospital, Beijing, China

²Committee of Experts on Rational Drug Use, National Health and
Family Planning Commission, Beijing, China

2 日目

平成 29 年 11 月 11 日 (土)

8:45~12:05

一般演題：発表 12 分、討論 3 分

8:45~

座長：土井 洋平(ピッツバーグ大学)

カルバペネム耐性

サブクラス B3 メタロ-β-ラクタマーゼ SMB-1 の阻害剤探索

○金地玲生, 和知野純一, 木村幸司, 荒川宜親

(名古屋大・院・医 分子病原細菌学/耐性菌制御学)

新規メタロ-β-ラクタマーゼ阻害化合物等の探索と開発へのチャレンジ

○荒川宜親¹, 和知野純一¹, 木村幸司¹, 佐藤綾人², 黒崎博雅³, 金 万春¹,

Anupriya Kumar¹, 金山堯人¹, 金地玲生¹, 坂野弘嗣¹, 北岡一樹¹

(¹名古屋大・院・医 分子病原細菌学/耐性菌制御学, ²名古屋大・トランスフォー
マティブ生命分子研究所 ITbM・ケミカルライブラリーセンター, ³金城学院大・
薬・機器分析学/薬品分析学)

東日本で検出されたカルバペネム耐性大腸菌の遺伝子解析結果

○小川美保, 坂田竜二, 市村禎宏

(株式会社ビー・エム・エル 細菌検査部)

ネパールの医療施設で分離されたカルバペネム耐性大腸菌の分子疫学解析

○多田達哉¹, Basudha Shrestha², 島田佳世³, Jeevan B. Sherchand², 菱沼知美¹, 切替照雄¹

(¹順天堂大学大学院医学研究科微生物学, ²トリブバン大学医学部微生物学, ³国
立国際医療研究センター研究所感染症制御研究部)

広島県で分離された多剤耐性 *Acinetobacter* が保有する GES-24 プラスミドの解析

○鹿山鎮男^{1,2}, 矢野雷太^{1,2,3}, 久恒順三^{1,2}, 山下明史⁴, 黒田誠⁴, 鈴木仁人⁵, 矢
原耕史⁵, 鈴木里和⁵, 柴山恵吾⁵, 大毛宏喜^{1,6}, 菅井基行^{1,2}

(¹広島大学院内感染プロジェクトセンター, ²広島大学大学院医歯薬保健学研究科
細菌学, ³広島大学大学院医歯薬保健学研究科 外科学, ⁴国立感染症研究所 病
原体ゲノム解析研究センター, ⁵国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター, ⁶広島
大学病院 感染症科)

Acinetobacter baumannii の接合伝達における VI 型分泌機構の影響

○吉田真歩^{1,2}, 平林亜希², 荒川宜親¹, 柴山恵吾², 鈴木仁人²

(¹名古屋大学大学院医学系研究科 分子病原細菌学/耐性菌制御学研究室, ²国立感染症研究所 薬剤耐性菌研究センター)

~~~~~**coffee break 10:15~10:30**~~~~~

10:30~

座長:鈴木 匡弘(藤田保健衛生大学)

## 検査方法

### 核酸クロマトを用いたカルバペネマーゼ遺伝子検出キットの有用性評価

○田寺加代子<sup>1,2</sup>, 鹿山鎮男<sup>1,2</sup>, 池田光泰<sup>1,2</sup>, 原稔典<sup>1,2</sup>, 黒尾優太<sup>1,2</sup>, 宮本重彦<sup>3</sup>, 直原啓明<sup>3</sup>, 菅井基行<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>広島大学 院内感染プロジェクトセンター, <sup>2</sup>広島大学大学院医歯薬保健学研究科 細菌学, <sup>3</sup>株式会社カネカ Medical Devices Solutions Vehicle)

## 地方衛生研究所のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌検査を迅速化するマルチプレックス PCR 法の開発

○綿引正則<sup>1</sup>, 鈴木匡弘<sup>2</sup>, 熊谷優子<sup>3</sup>, 松本裕子<sup>4</sup>, 範本志保<sup>1</sup>, 野田万希子<sup>5</sup>, 河原隆二<sup>6</sup>, 増田加奈子<sup>7</sup>, 仙波敬子<sup>8</sup>, 福田千恵美<sup>9</sup>, 原田誠也<sup>10</sup>, 松井真理<sup>11</sup>, 鈴木里和<sup>11</sup>, 鈴木仁人<sup>11</sup>, 柴山恵吾<sup>11</sup>, 四宮博人<sup>8</sup>

(<sup>1</sup>富山県衛生研究所・細菌部, <sup>2</sup>愛知県衛生研究所・生物学部\*, <sup>3</sup>秋田県健康環境センター・保健衛生部, <sup>4</sup>横浜市衛生研究所・微生物検査研究課, <sup>5</sup>岐阜県健康環境研究所・保健科学部, <sup>6</sup>大阪健康安全基盤研究所・微生物部, <sup>7</sup>広島県立総合技術研究所・保健環境センター, <sup>8</sup>愛媛県立衛生環境研究所・衛生研究課, <sup>9</sup>香川県環境保健研究センター・微生物細菌, <sup>10</sup>熊本県健康環境科学研究所・微生物科学部, <sup>11</sup>国立感染症研究所・薬剤耐性研究センター)

## Drug Susceptibility Testing Microfluidic device (DSTM)を用いた血液培養陽性検体の迅速感受性検査法の検討

○坂田竜二<sup>1</sup>, 小川美保<sup>1</sup>, 市村禎宏<sup>1</sup>, 霜島正浩<sup>1</sup>, 松本佳巳<sup>2,3</sup>

(<sup>1</sup>株式会社ビー・エム・エル 細菌検査部, <sup>2</sup>株式会社フコク, <sup>3</sup>大阪大学 産業科学研究所)

## MAIDI-TOF MS データを用いたバンコマイシン低感受性 MRSA 株の自動判別

朝倉弘太<sup>1</sup>, 畦地拓哉<sup>1</sup>, 笹野央<sup>1</sup>, 松井秀仁<sup>2</sup>, 花木秀明<sup>2</sup>, 宮崎元康<sup>3</sup>, 高田徹<sup>4</sup>, 関根美和<sup>5</sup>, 高久智生<sup>6</sup>, 落合友則<sup>6</sup>, 小松則夫<sup>6</sup>, 柴山恵吾<sup>7</sup>, 片山由紀<sup>5</sup>, ○矢原耕史<sup>7</sup>

(<sup>1</sup>順天堂大学医学部附属順天堂医院 薬剤部, <sup>2</sup>北里大学北里生命科学研究so 感染制御研究センター, <sup>3</sup>福岡大学筑紫病院 薬剤部, <sup>4</sup>福岡大学病院 感染制御部, <sup>5</sup>順天堂大学 医学部・微生物学講座, <sup>6</sup>順天堂大学 医学部・血液学講座, <sup>7</sup>国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター)

11:30~

### 疫学調査

#### 携帯型実験機器を用いたアジア新興国現地での薬剤耐性菌のゲノム疫学解析

○平林亜希<sup>1</sup>, 柳沢英二<sup>2</sup>, 高橋宏瑞<sup>3</sup>, 矢原耕史<sup>1</sup>, 柴山恵吾<sup>1</sup>, 鈴木仁人<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター, <sup>2</sup>株式会社マイクロスカイラボ, <sup>3</sup>順天堂大学医学部 総合診療科)

#### JANIS 検査部門薬剤耐性菌分離率の推移と2016年地域別耐性菌分離状況報告

○川上小夜子, 矢原耕史, 筒井敦子, 柴山恵吾

(国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター)

12:00~12:05

閉会の挨拶